第１学年算数科「たしざんやひきざんのしき」単元構想図（総時数３時間）

本単元で必要とされる既習の基礎的・基本的な知識・技能及び考え方

(1) 知識・技能

（１年）① 数の増減の意味

② 和が10以内の加法計算（合併・増加）

③ 被減数が10以内の減法計算（求残・求差）

④ 20までの数の数え方、読み方、書き方、大小、順列、構成

(2) 考え方

㋐ 自分の考えを図や絵で表現する。

㋑ 友だちの考えと自分の考えの違い（よさ）に気付く。

【指導計画】

時	主な学習活動・内容	基礎的・基本的な知識・技能及び考え方の活用		活用を促進するための手だて
1	情景図から、場面に合ったたし算やひき算の問題を作り、問題を解くために、問題の場面を整理した図や絵で表して、式を立て、答えを求める。 A たし算、ひき算の場面の理解 B 式の立て方 C 式と問題の関係の理解 言 自分の問題を友だちに分かるように、図や絵で表現する。	①②③④㋐	絵の中にある人やものの数を確認し、数の増減を考えて問題を作る。 合併か増加かを考えながら、既習の加法の問題文や言葉を活用して、加法計算の問題を作る。 求残か求差かを考えながら、既習の減法の問題文や言葉を活用して減法計算の問題を作る。 問題の数量関係に着目して、問題の場面を整理して、図や絵で表現する。	３つのステップを示し、問題作りに取り組ませる。 ・はじめの数 ・つぎの数 ・たし算の言葉（ひき算の言葉） 今までに使ってきたブロック、○や絵等を使って、解いた友だちが分かりやすいように、問題を整理させる。
2	友だちが作ったたし算やひき算の問題について、問題の場面を整理して図や絵で表し、式を立て、答えを求める。 D 問題場面の表現の仕方の理解 友だちが作った問題を解いたことを基に、自分が作った問題や問題の場面を表した絵や図を見直し、改善する。 E 数量の関係を表す言葉 言 友だちの問題や、図・絵などの考え方のよいところを書く。	㋐㋑ A B C	問題の場面がたし算なのか、ひき算なのかについて、言葉を手掛かりに判断し、問題を解く。 問題を解くために、問題の場面を整理して、図や絵で表現する。 友だちの問題のよさを知り、自分の問題を見直す。	各自の机上に問題文を置かせ、席替えをすることにより、他の児童の問題を解かせる。 自分で図や絵をかいて問題を解いた後、問題を作った友だちの図や絵を見て、自分の考え方と比べさせる。
３本時	**「しきともんだいあてクイズ」を通して、問題の場面を整理して表現した図や絵等から式を考え、元の問題文について予想する。** **言 図や絵のどこに着目して、元の問題文を予想したのか、説明する。**	**㋐㋑ D E**	**問題を解く際に、問題文から問題の場面を整理した図や絵等に表して、式を立て、答えを求めたことを活用して、図や絵等の表現から式や問題を予想して説明する。**	**図や絵をよく観察させて、数だけでなく矢印や囲みなどの表現にも注意して、数量関係を判断させる。**